

日韓トンネル特別講演会

100兆円の経済効果も

東京・渋谷

二十一世紀を拓く世紀のプロジェクトとして期待されている「日韓トンネル」と「国際ハイウェイ」について考える研究会「日韓トンネル特別講演会」(主催、アジア人協会)が十一月二十四日、東京・渋谷区の渋谷エクセルホテル東急で開かれた。

清水馨八郎・千葉大名大学教授が「日韓トンネルと日本の使命」をテーマに講演を行い「今日、東京・渋谷区の渋谷エクセルホテル東急で開かれた。尹世元・大韓民国学術院会員は「二十一世紀は宗教の戦争が起きているが、アジアはそこから抜け出し新しい時代を築か

は百兆円ある」と東アジアの経済復興に大きな波及効果がある

ことを説明した。続いて、釜山水産大の高冠瑞名教授が「南北鉄道・道路の建設」と題し講演。高教授は、韓国と北朝鮮の鉄道・道路(京義線、東海線)の連結工事が九月十八日、南北同時に着工され「連結作業は、路線の複線化、電鉄化率など技術的な問題も残されている」と分析した。その一方で「日韓トンネル」の建設は、「先見性を持って取り組まなければならない」と、東アジアの発展のため必要不可欠であることを強調した。